



# Risk Flash No.25 (Vol.2 No.11)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也  
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1  
 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189  
 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp  
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 経済の視点：サーチュイン遺伝子と終身年金保険・・・Page 1
- 今週の論文紹介：ヒックス・森嶋アプローチ再考ー市場の相互連関への今一つの視角ー・・・Page 2
- 教員紹介：太田善之・リスク研究センター通信・・・Page 3

## 経済の視点

### サーチュイン遺伝子と終身年金保険

老化を遅らせ、寿命を延ばす遺伝子が見つかったという報道が欧米の学会誌はもとより日本のお茶の間のテレビでも見られます。この遺伝子は「サーチュイン遺伝子」と言われ、特別な人でなくても、誰もが平等に保有しています。うまくこの遺伝子を働かせる（活性化すること）ができれば、人間の平均寿命は100歳を超えと言われていています。マサチューセッツ工科大学生物学部のレオナルド・ギャランテ教授により発見された同遺伝子は、約20億年前の生物が自衛の飢餓対策として獲得した寿命を延ばす生物共通の遺伝子です。血管や細胞を破壊するミトコンドリアが出す「活性酸素」や「免疫細胞」の暴走などが老化をもたらすと言われていますが、この遺伝子はこの2つに加え約100近くの老化促進要素をバランスよく抑え込むための指令を出すと言われています。

欧米では、長寿の日本人だけでなく欧米人自身にも同じ遺伝子があることに喝采があがっているようです。この遺伝子を活性化するのは意外に簡単で、カロリー摂取量を制限すること（ただし一生続けなくてはならない）です。もともと生物の飢餓対策として突然変異で誕生した遺伝子ですから当然のことかもしれません。日本人が昔から言い続けてきた「腹八分目」がこの遺伝子を活性化してきたとも言えます。

一方で100歳まで寿命が延びれば嬉しい半面、平均寿命約80歳の日本でも年金財政が苦しいのに、間違いなく公的年金制度は破綻の脅威にさらされます。老後の経済的準備に国も個人も途方もなく大きな金額の準備が求められます。世代間扶養ではますます年金財政の維持は困難

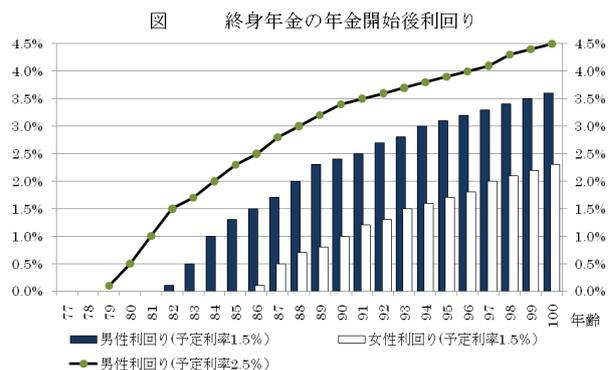
くぼひでや  
ファイナンス学科教授 久保英也

になるため、自分で資金を積み立てる自助努力型の個人年金保険が重要になると思います。

民間の終身年金は利回りが低いと言われていますが、現在の生存率をベースに100歳まで利回り計算を行うと下図のようになります。男性100歳までの平均利回りは3.5%、同女性で2.3%です。予定利率と言われる保険会社の運用予想利回りが長期の市中金利とほぼ同じと仮定すると男性の場合それを2%も上回るようになります。

当然のことながら日本人全員がこのように長寿になれば生存率が更に上昇して、利回りも長期的には低下してくることになります。

したがって、人よりも早く、率先して自分のサーチュイン遺伝子を活性化させ長寿になることがこの高利回りを獲得する最良の方策と言うことになります。さあ、腹八分目の実践にかかりましょう。



(出所) 男女別年金開始後死亡率を用いて、筆者が計算(60歳から年金を受給し始めたとして、各年齢までの利回り)、作図。

## 今週の論文紹介

ヒックス・森嶋アプローチ再考—市場の相互連関への今一つの視角—

さかいやすひる

著者：滋賀大学名誉教授（リスク研究センター客員研究員）酒井泰弘

収録：リスク研究センターCRR、Discussion Paper No. J-14, 2011年6月

**概要：** 本稿においては、今や学界でほとんど忘れられた感のある「ヒックス・森嶋アプローチ」を再考することによって、多数市場の間の相互連関への今一つの視角をあらためて検討する。森嶋通夫教授の初期の業績は、J. R. ヒックスの古典『価値と資本』（初版 1939 年、二版 1946 年）を森嶋流に一層発展させたものであった。私自身の学位論文（1972 年）も、両先生の著作を私なりに咀嚼展開したものとと言える。

森嶋先生は著作『無資源国の経済学』（1984 年）の中で、複数個の超過需要曲線の相互依存関係に基づくヒックス・森嶋アプローチの復権を試みられたが、内外の学界の反応はいまいちであったようだ。私はかかるアプローチを敢えて今一度採用し、一般均衡の不安定性、非存在、複数均衡などの諸々の「変則事態」の再検討を行うと

ともに、パラメータ変化に関する比較静学的結果を視覚的に導出しようと試みる。

国難の時期を迎えて、「温故知新」、つまり古きことから新しき

意味を引き出すことが、我々にとって重要な責務である。本稿を通じて、ヒックス・森嶋アプローチの有用性と将来への発展可能性とが再認識されることを願っている。



### 著者のつぶやき

「モリシーマ、モリシーマ！」これこそが、私のロチェスター大学留学時代を象徴的に示す言葉である。雪深きアメリカ東北部の教室でかくも連呼した教授は、一般均衡理論の世界的権威マッケンジー先生であった。マッケンジー教授のイギリス留学時代の恩師が、他ならぬヒックス先生なのであった。

当時の若き学徒たちにとって、「モリシーマ！」という呼称は常に仰ぎ見るような存在だった。当時の日本人たちの貧しくも頑張っていた状況は、吉永小百合主演の白黒映画「キューポラのある町」の中で非常によく描かれていた。「日米安保反対！」

のデモが連日のように続いていた或る日、アメリカ留学を決めていた私は、天下のモリシマ先生から、こう励まされたものだ。

「君の名前は聞いていますよ。ロチェスターでは、あのマッケンジーに宜しく！」

気温が零下マイナス 20 度、風速 20 メートルの冬の大地にて、連日連夜、午前 1 時まで大学図書館で奮闘努力する人間にとっては、国際一流雑誌に掲載された「モリシーマ論文」は「神様の導きの手」のような圧倒的存在感があったのだ。願わくは、この新世紀において「第二、第三のモリシーマ！」が颯爽と出現するように！！

## 教員紹介「太田善之」

### (1)現在の研究テーマと今後の抱負

財務会計を専門とする私の現在の研究テーマは①利益とは何か、そして②利益と所得の違いは何か、さらに③それらの計算構造をどのように理解すればよいのか、という諸点について考察することです。新しい会計基準が次々と作られる今、実務家にとってはそれらを使ってどのように会計処理を行うか、ということが現実的な問題でしょう。そうしたことを承知しながらも、「知の拠点」である大学で研究・教育活動にいきそしむ自分としては、上述の問題に対して歴史的背景を探りその上で理論的なアプローチを採ることによって基礎概念を固めることが、今後の会計学の発展に寄与しうるものと考えています。

一方で、現在、公認会計士試験・試験委員（財務会計論）である私としては、実務界に船出しようとする学生諸君に、この試験に是非チャレンジして欲しいとも願っています。当該試験をめぐる混迷の有り様は承知していますが、一人でも多くの滋賀大

学生が公認会計士になるよう、研究上の知見を活かした教育を行うように努力していきたいと思っています。



### (2) 研究以外での最近の関心事

アメリカやイギリスものが多いですが、ケーブルテレビで海外ドラマ（犯罪・サスペンス、アクション、医療、SF、リーガルもの、コメディなど何でもありです）を見るのが好きです。一概には言えませんがこうしたドラマを見てみると、欧米社会における「銃」の存在が、日本と異なりきわめて大きいこと気づかされます。

おおたよしゆき  
会計学科教授 太田善之

## リスク研究センター通信

韓国啓明大学校 柳社会科学大学学長ご一行が来日、滋賀大学を訪問されました。

滋賀大学と国際交流協定を締結している韓国啓明大学校の柳社会科学大学学長と朴韓国広域連合事務総長（大慶圏広域経済発展委員会）など4名が、6/9（水）～6/10（金）に来日されました。滋賀大学リスク研究センターのコーディネートにより、関西広域連合の中塚事務局長、山西独立行政法人医薬基盤研究所理事長、前場ロボットラボラトリーミッションリーダーらと会談、両広域連合が産業振興、防災、環境などの分野で、協定も視野に入れた関係を築くことで合意しました。

また、柳学長は6/10（金）に佐和学長と会談し、滋賀大学と啓明大学の交流促進を確認すると共に日韓の原子力発電やそのリスクなどについて話し合いました。同時に、朴事務総長に随行されていました李韓国広域連合企画総括課主席研究員は「大慶圏と近畿圏

の交流協力案模索」と題してリスク研究センターセミナーで発表されました。

くぼひでや  
文責 久保英也



左から李韓国広域連合主席研究員、柳啓明大学校社会科学大学学長、佐和学長、ミン浦項ロボット研究所チーム長、久保リスク研究センター長、金准教授

### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

— \*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(  <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12> )

\*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金乗基、久保英也、  
澤木聖子、得田雅章、弘中史子、宮西賢次

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月～金 10:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)

Web page:  <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>